

「境界」が

現れるとき

本号の特集テーマは、「境界」が現れるときです。私たちの身の回りには、多くの境界があります。今、世界情勢を見れば、政治対立という境界がその姿を現しています。しかし、境界はいつもはつきりと目に見えるものであったり、自覚されたりしているとは限りません。普段は気づかずに過ごしているが、ふとしたときに現れ、否応なく意識させられる境界——たとえば、ジェンダー、人と動物との関係、「この世」と「あの世」、辺境という地理的な境界から身近な地域における住民同士の社会的・文化的あるいは歴史的な境界など。境界はいつ、どこに、どのように現れてくるのか、そして私たちは境界をどう考えていけばよいのか。特集では、ジェンダー研究者、人類学者、路上生活者支援者、辺境をフィールドとする写真家の方に、これまで触れ、考えてきた境界をめぐるエッセイをご寄稿いただきました。境界を起点に、今私たちが意識的・無意識的に直面するさまざまな問題を考えていくための洞察に満ちた特集です。

(親鸞仏教センター 宮部 峻)

交差点

Essais

連載

特集

武内今日子 ● 2
非二元的なジェンダーをめぐる実践の抹消に抗して

奥野克巳 ● 6
境界なき世界の往還と他力―浄土思想からアニミズムを読み解く―

吉水岳彦 ● 10
悲愛の境界

栗田哲男 ● 12
「チベット」という語に潜む固定観念

本多弘之 ● 16
宗教的実存を成り立たせるもの I

眞野明美 ● 18
ウイシユマさんが生きていけた社会

竹村瑞穂 ● 20
スポーツの意味と美しさについて

横山百合子 ● 24
「日記」を書く遊女たち

八馬智 ● 26
日常の中に潜む「巧まざる造形」を鑑賞する

宮部峻 ● 30
無自覚と無知

加来雄之 ● 31
二つの世界